

キチジ (あかじ)



生態的特徴等

【生態】

オホーツク海沿岸や駿河湾以北の太平洋沿岸に分布し、水深 350～1,300m の深海域（特に水深 500～800m）に生息する。本種は成長が遅く、1 歳で体長 5.6 cm、2 歳で 6.8 cm、3 歳で 7.9 cm、4 歳で 8.9 cm、5 歳で 9.9 cm、6 歳で 10.8 cm 程度となり、体長 20cm に達するのに 10 年以上を要する。産卵期は 1～4 月。餌はエビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類および魚類等を食べる。

【漁法と盛漁期】

主に底曳網で漁期（9 月～翌年 6 月）をとおして周年漁獲され、平潟や大津、久慈漁港で水揚げされる。本県の市場では「あかじ」とも呼ばれている。なお、底曳網では様々な魚種が漁獲対象となり、狙う魚種によって操業水深が変化する。浅海域（キチジの生息水深より浅）での操業が多い年は本種の漁獲量が低下すると考えられる。

【利用】

主に煮つけや唐揚げ等で食される。干物として加工されることもある。

資源水準は中位、動向は減少傾向

（漁獲量）太平洋北部における漁獲量は H10 年以降増加傾向であったが、H21 年以降は減少に転じ、以降増減を繰り返している（図 1）。

県内漁獲量は H3 年以降減少し、H6～23 年は 5～25 ト前後で推移した。H23 年の東日本大震災直後はヤリイカ等の沿岸資源の漁況が良く、深海性であるキチジの漁獲量は 1 ト未満に減少した。H29 年から漁獲量が増加し、H30 年には 47 トに急増したが、その後は再び減少し、R6 年は 0.5 トとなった。（図 2）。

（水準と動向）資源水準および動向は、国の資源評価（R7 年度）に従い、「中位」、「減少」とした。（県の統計データのみでは資源状況を十分に評価できないため。）

水 準



(国)

動 向



(国)

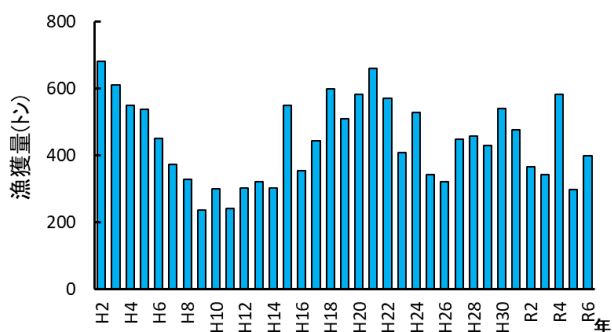


図1 太平洋北部海域におけるキチジの漁獲量

千葉県外房から青森県尻屋崎沖で操業する底曳網の漁獲量で、水産資源研究所の集計値

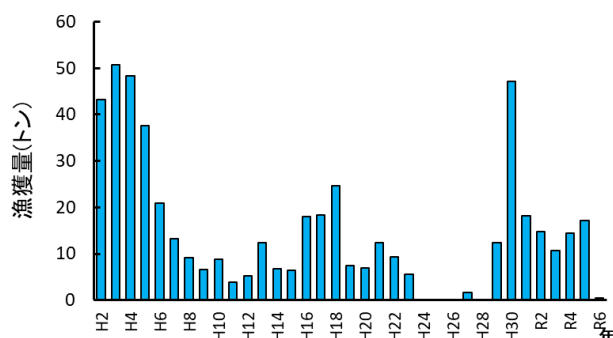


図2 茨城県におけるキチジの漁獲量

水試システムによる属地集計値(底曳網)

【全国の漁獲動向】

主な産地は、北海道、青森県、岩手県、宮城県で、北海道では 600 ト程度の水揚げがある。

評価期間：令和 6 年 1 月～令和 6 年 12 月

更新日：令和 8 年 7 月 9 日